

### ・受付可否を判断できる最低限の基準が知りたい

・Wマークに×印のものは受け付けないでください。

基本的には水洗い可表記のすべてのウェアをお預かり可能です。

ただし、破れ・傷・経年劣化などが見られる場合は、クリーニングの工程でダメージが進行し、破損につながる可能性がございます。

その点をご理解いただいた上で、「それでも構わないのでクリーニングをお願いしたい」というご希望があれば、対応は可能です。

※その際に万が一破損が生じた場合でも、当方では補償などの責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。

#### 商業ウエットクリーニング

	ウエットクリーニング処理ができる。 <通常の処理>
	ウエットクリーニング処理ができる。 <弱い処理>
	ウエットクリーニング処理ができる。 <非常に弱い処理>
	ウエットクリーニング処理はできない。

### ・ドライクリーニングって何？

水を使わず、石油系やパークロロエチレンなどの“有機溶剤”で衣類を洗うクリーニング方法です。

「ドライ＝乾いた」ではなく、“水を使わない＝乾式”という意味合いからこう呼ばれます。

近年減少傾向にあります。以下ドライ洗いタグです ※他クリーニング業者様との比較にお使いください。

	パークロロエチレン及び石油系溶剤によるドライクリーニングができる
	パークロロエチレン及び石油系溶剤による弱いドライクリーニングができる
	石油系溶剤によるドライクリーニングができる
	石油系溶剤による弱いドライクリーニングができる
	ドライクリーニング禁止

### ・ダブル洗って何？

ドライクリーニング（油性洗浄）＋水洗い（温水）の2工程で洗う方法です。

1回の洗浄では落としきれない「油汚れ・皮脂」と「汗・泥・塩分」を

それぞれ最適な工程で処理できるため、“ダブル＝2段階洗浄”と呼ばれます。

ダブル洗いは「汚れ落ち＋機能回復」には優れるものの、

コスト・納期・ウェアの素材リスク・環境への負担が伴います。

### ・フードにファーが付いているものは受付できる？

・ファーが本物の場合は取り外し可能かどうかを見てください。

取り外し可能→ ウェアのみクリーニング/ファーは洗わずお返し

取り外し不可→ 受け付けないでください

フェイクファーの場合はクリーニング可能です。

### ・自宅で洗っても落ちなかった汚れや、古い汚れは取れますか？

ご家庭で温水洗いしても落ちない汚れは、当店の水洗いでも残る可能性があります。

ただし当サービスの目的は、目に見えない汚れまで除去し、

耐水・透湿性能を回復させることにもありますので

その旨をお客様へお伝えください。

### ・油ジミはクリーニングでどの程度落ちますか？

ほとんど除去できないとお考えください。

油ジミを落とす場合はドライクリーニングが向いてますがデメリットが多くあります。

※弊社ではドライクリーニングを行っておりません。

※他クリーニング業者様との比較にお使いください。

### ・最近のウェアはドライクリーニングに向いていないのですか？

以前のウェアにはドライ対応品も多くありましたが、

近年は防水メンブレンやプリントロゴがドライ溶剤と相性が悪いものが増えています。

水洗いの需要が高まっております。

※他クリーニング業者様との比較にお使いください。

・石油系ドライを行うと油膜が残り透湿性が落ちると聞きました。本当ですか？

油膜そのものが透湿性を低下させることはほぼありません  
ただしドライ工程で撥水加工が取れると結果的に透湿性が落ちる場合があります。

※他クリーニング業者様との比較にお使いください。

・洗浄・撥水工程で使う薬剤が人体に影響することはありますか？

ございません。

・ドライクリーニングと水洗いで、撥水仕上がりに差は出ますか？

差が出るとすれば“汚れがどれだけ落ちたか”によるもので、  
洗浄方法そのものの違いではありません。

・GORE-TEX® は毎回洗うのが推奨されていますが、通常のウェアも使用のたびに洗ったほうが良いですか？

汚れは早く落とすほど生地を良好に保てるため、理想的にはそうなります。

・家庭用の NIKWAX などとの違いは？

洗浄温度による汚れの落ちやすさが違います。  
また容量の大きなタンブラーにより洗浄力が高く、  
撥水処理後の乾燥工程での定着方法が大きな違いです。

・手洗い表示のウェアもお願いできますか？

可能です。

・撥水効果はどのくらい持続しますか？

明確な数値は出せません。素材・保管方法・使用環境（晴天／雨／暴風雪／ドライスノー・ウェットスノー）  
バックパック着用の有無などで大きく変わるためです。  
市販の防水スプレー以上は持ち、他クリーニング業者より劣るということもないですが  
トラブルを避けるためにも具体的な数字は避けてください。

・何年前のウェアまでクリーニングできますか？

使用状況や保管状態によりますが、目安として製造から5年以上経過した品は要注意です。

・クリーニング後にウェアの状態が悪化することはありますか？

経年劣化したメンブレンが洗浄で破損することがあれば、耐水・透湿性が低下する場合があります。  
やはり目安としては製造後5年以上経過したものが要注意となります。

・色落ちリスクはありますか？

水洗いが基本となるため、色落ちの可能性がごく稀にあります。  
リアルデニム生地はほぼ確実に色落ちします。

・ニオイは残りますか？ NIKWAX のような独特の匂いが気になります。

通常はほとんど気になりませんが、水洗い後は撥水剤を定着させるため、  
敏感な方は感じる場合があります。

・生地が縮むことはありますか？

縮む素材が使われている場合、洗濯表示で水洗い不可となっているはずですが。

・汚れはどこまで落ちますか？（土・泥・錆・オイルなど）

時間が経過するほど落ちにくくなります。  
最終的には実際に処理してみないと分からないケースがほとんどとなります。  
油性の汚れやこすりつけた汚れは難しくなります。  
ただし当サービスの目的は、目に見えない汚れまで除去し、  
耐水・透湿性能を回復させることにもありますので  
その旨をお客様へお伝えください。

・白いウェアの黄ばみは落ちますか？

経過時間・素材・汚れの種類により異なります。  
現物確認または実際に洗って見ないと判断できませんが、  
日焼けによる黄ばみは落とせません。